

親子のコミュニケーションを支援する
「親子ふれあい太鼓教室」

スポーツやアウトドアなど、親子でふれあう時間を増やすための催しは珍しくないが、大阪府茨木市のNPO法人「菩提樹」ではユニークな方法を取り入れている。和太鼓を通じて親子の交流を深める「親子ふれあい太鼓教室」だ。

この教室の原点は、いまから二十三年前までさかのぼる。当時は校内暴力やいじめが社会問題としてメディアをにぎわせていた。子供たちの心の荒廃を食い止めたいと思った浄土真宗・西福寺(茨木市)の住職・藤大慶さんが「るんびに太鼓」と名づけて始めた。「るんびに」とは、釈迦が誕生した地名で、授かった命を大切にしたいという願いがこめられている。親子そろって太鼓演奏をすることで、家族のコミュニケーションの機会を増やし、親も子も成長していこうという狙いもある。



演奏を終えてポーズをキメる子供たち。後列中央は太鼓指導の辰巳明日香さん

や短所を書き出して、より良い親子関係を築ききっかけ作りをしている。こうした活動を続けるうちに「菩提樹」は、単なる太鼓教室ではなく地域コミュニケーションとしての側面も持ち始めた。

「子供同士、親同士のつながりはもちろんですが、るんびに太鼓を卒業した子供が大人になってから、太鼓の指導に来てくれることもあります。茨木市の教育委員会からも評価されるまでになりました」

と、松尾さんは話す。現在では同教育委員会と連携を取りながら、社会教育活動に広く取り組んでいる。2008年6月には「夜回り先生」として知られる水谷修さんの講演会を開き「るんびに太鼓」も披露するというイベントも行った。

ところで、あまり知られていないが和太鼓の価格は、ステージで演奏するクラスのものになると120〜150万円もする。大きなものになると200万円以上だ。しかし、太鼓教室の会費は、大人2000円、子供1000円のバチ代のみ。ほぼ無償の活動維持のために、JK Aでは今年から「菩提樹」に支援を



上/演奏会は子供たちにとっての晴れ舞台
下/「どうだった?」「緊張したよ」と親子の会話が弾む

行っている。

「太鼓の皮のはりかえや練習場の確保など、活動には費用がかかりますから、補助金には助けられています」(松尾さん)

参加しているメンバーに太鼓教室の感想を聞いてみた。小学3年生の徳山祐樹君の母・一江さんは、

「子供に和のものに触れさせよう」と参加しました。子供と一緒に教室の先生方の演奏を聴きに行くことや家庭で太鼓を通じた話をするのも多いのですが、息子に「腰が入ってないよ」など、私の方が教えられることもあります(笑)」

JK Aの補助事業は、親子のコミ

ュニケーションと、子供たちの健全な成長の一助となっているようだ。取材に訪れた日は、茨木市西河原地区の文化祭が行われていた。6月から和太鼓を始めた、小学校1〜4年生までの子供たちとその親が、会場となった西河原小学校体育館のステージに立った。

演奏前は舞台の上で緊張して固くなったり、照れ笑いしたりしていた子供たち。しかし、いざ始めると堂々とし、大きく体を振ってバチを太鼓の皮に向かって叩きつけていた。

1曲のみだったが、演奏を終えて壇上に並ぶ子供たちの顔は、満足そうな笑顔にあふれていた。(大城 祐)

なぜ太鼓なのか。「菩提樹」副理事長の松尾正隆さんはこう説明する。「太鼓の音はただ叩くと雑音のようなものなんです。それがリズムを持つと、心地よい音楽になってくる。さらに演奏をしようと大勢で叩いていて、音がそろつてくると非常に楽しい。他人のことを考えながら、一緒に作り上げていく喜びがあるのです。内気だった子でも半年もやると、積極的になり、目の輝きが違ってきますよ」

競輪マークみつけた

〈財〉予防医学事業中央会

(財)予防医学事業中央会は、各種がんや生活習慣病等の疾病予防に関する健康教育・調査研究活動を行うことを目的として平成41年に設立されたが、傘下の各県支部では関係機関の協力を得て健診検査を精力的に行っている。先ごろJK Aの競輪公益資金により配備された広島県支部の胸部検診車は、早くも肺がんの早期発見にフル稼働しており、国が目指す「がん検診受診率向上」に大きく寄与している。

